

## 令和4年度第4回山形県特定鳥獣保護管理検討委員会 発言趣旨

- 1 日時 令和5年1月31日(木) 午前9時半～11時半
- 2 開催方法 ZOOM
- 3 委員

鈴木正嗣(岐阜大学)、江成広斗(山形大学)、藤本竜輔(農業・食品産業技術総合研究機構)、遠藤三郎(山形県猟友会)、(片桐弘一の代理)松野尚(山形県獣医師会)、鈴木康雄(山形市)、(野口勝世の代理)有路孝志(最上町)、(石黒龍実の代理)吉池賢太郎(米沢市)、五十嵐修一(鶴岡市)、齋藤真朗(山形県)  
(敬称略)

### (1) 令和5年度ツキノワグマ春季捕獲水準について(協議)

#### (事務局)

説明

#### 錯誤捕獲について

#### (江成委員)

- ・今年度から錯誤捕獲の情報収集を行い、合計が約80頭との報告があったが、全ての市町村からの情報収集ができたのか。
- ・錯誤捕獲された個体を、有害捕獲に切り替えて処理するという話を現場ではよく聞くが、この統計データにどのように反映されているのか。錯誤捕獲されたものは、全て捕殺されているのか。

#### (事務局)

- ・11市町からの錯誤捕獲の報告があった。総合支庁に確認したところ、すべての市町村から報告があがっているとの認識だった。
- ・錯誤捕獲数については、有害捕獲に切り替えた数を計上している。錯誤捕獲された1頭が逃げ、放獣となったのが1件ある。また、大型鳥獣放野等業務で放獣したものが2、3頭いるが、統計に反映していないので計上の仕方を検討したい。

#### (江成委員)

- ・まずは、錯誤捕獲の実態把握をするため、実態を報告してもらえる仕組みづくりが必要である。また、集めた錯誤捕獲の情報は、くくりわなや箱わななど、どのような状況でどの地域で起きているのかを把握・共有し、その先の対策につなげていく必要がある。
- ・クマの個体数推定の方法について、県は10年前から見直しますと言っているが、見直されていない。現在の方法では、科学的な手法に基づいた個体数推定になっておらず、それを基に捕獲上限数の妥当性を問われても、研究者の立場からは回答できない。検討委員会において、個体数推定をどこの部分からなら現実的に改善していけるか、建設的な議論を積み上げてほしい。
- ・第2種特定鳥獣管理計画であれば、個体数調整の議論をしなければならない

が、有害捕獲の議論しかされておらず、有害捕獲の仕組みは現場任せになっている。第2種特定計画の趣旨を考えれば、捕獲上限は、「この頭数まで捕獲してよい」ではなく、「この頭数まで獲らないといけない」と解釈されるべきで、県の目標頭数2,000頭に近づけるような仕組みになっていない。クマについて、第2種特定計画を本当に継続させるべきかについて議論もあるかもしれないが、県は今期の計画をすでに立てているわけなので、まずは、どうやってその目標に近づけるかということを考えて議論してほしい。

(鈴木正嗣委員)

・錯誤捕獲については、減らす、なくす努力を怠ってはならないが、イノシシ・シカの捕獲圧を高めなければならないため、存在してしまう。今回は、錯誤捕獲の減らし方よりも行政としての取扱い、どのように対応し、どのように運用するか、どのように情報収集をするかを中心に議論したい。

(江成委員)

・錯誤捕獲の報告については、どのようなパターンで錯誤捕獲が発生したのか、事例も集め、統計データとして蓄積していく必要がある。市町村の担当者に、錯誤捕獲報告の重要性を共有し、回答する意義を理解してもらって、統計データを収集し、どのような対策ができるのかを検討していくことが必要である。データがあるのであれば、整理して共有してほしい。

(鈴木正嗣委員)

・錯誤捕獲に対する後ろめたさと事務手続きの煩雑さがデータを収集できない原因だと思われるので、可能な限り関係者の負担等を軽減し、市町村等と情報を共有し、理解してもらうことが必要である。その上で、錯誤捕獲を減らす具体的な方法を検討していきましょう。

### モニタリングについて

(江成委員)

・異なる意見もあるかもしれないが、山形県のクマは基本的に普通種という取り扱いなので、労力や予算のコストを踏まえると、〇〇頭という絶対個体数の算出ではなく、相対個体数、すなわち個体数のトレンド把握（個体数指数の把握）に切り替えた方が現実的だと思われる。今までも曖昧な個体数の推定値だったことを考えると、現行のスポット的な調査データを体系的に集約し、年変動を相対的にみていく方向に切り換えていった方がよいのではないかと。

(鈴木正嗣委員)

・トレンドの把握と絶対数の把握では調査方法、設計が異なる。根本的に変えることによって、コスト削減、手間をカットできる側面もあり、具体的に検討する時期だと思う。

(齋藤委員)

・次期計画までに様々な調査で全県的に設置しているカメラや目視調査、目撃情報などを加え、年変動を見ていく方法に変えられないかと思っているので、岐阜県の定点カメラでの調査について伺いたい。

(鈴木正嗣委員)

・林野庁と岐阜大学の野生動物管理学研究センター（岐阜県と岐阜大学共同）で調査を行っており、研究員が現場に行き、科学的な情報収集と解析を行っている。山形県の場合、カメラの情報が少ないかもしれないが、情報収集と解析、それを具体的に計画に反映させるという3本柱で調査体制も含めて検討していくといいのではないか。

**（江成委員）**

・第2種特定計画で目標2000頭にするとしているのであれば、市町村任せの有害捕獲ではなく、県主導で個体数調整をしていかなければならない。そこが曖昧になっており、次期計画では県の役割を明確にしていくべきではないか。個体数調整で計画的に捕獲圧を高め、その結果が相対個体数のトレンドにどのように反映されるかによって、現行の個体群モニタリング手法の妥当性の検証にも還元できる。現行のクマ計画は、「これ以上獲らないように」ということだけが目的となっているようで、第2種特定計画の目的とは大きく異なる。

**（鈴木正嗣委員）**

・春季捕獲が市町村任せ、猟友会任せになっており、非常に負担をかけている。捕獲しながらカウントする、雪などの捕獲条件もある中で調査して、モニタリングとしての適切性を担保できているかという懸念もあり、市町村、猟友会の猟法を考えながら、より科学性のあるものにしてほしい。また、春季捕獲が狩猟技術の劣化を食い止めるのに重要だと思われるので、技術伝承と位置付けている北海道の取組を参考に検討してほしい。

**（藤本委員）**

・市町村や猟友会が頑張ってくれていて、県の存在感がないということかと思うが、最終的に県が制度上、数をコントロールできるようであればよいのではないかと思う。そのためにもモニタリングが重要である。

**（鈴木正嗣委員）**

・数値の信憑性があるのかという意見も出たが、今回出たコメントの条件付きで、今年度の計画について認めることとする。

**（2）令和5年度実施計画について（報告）**

**（事務局）**

説明

**事業予算について**

**（藤本委員）**

・事業内容の他に予算の情報がないと、判断ができない。予算の情報があれば、こちらに予算を使った方がいいのではないかというような意見を言うことができる。

**（鈴木正嗣委員）**

・予算規模と効果検証を一緒に提示することが重要で、人も予算もない中で実効性のあるものに予算をかけていくことが非常に重要なので、今後の資料の作り方を検討してほしい。

#### (江成委員)

・シカのモニタリング体制について、ボイストラップ調査を民間に移行して18市町村で行うとなると、かなり予算が必要になると思うが、持続可能なのかどうか。また、今年度の調査結果がまだ出ていないと思うが、森林研究研修センターから見せていただいたデータでは、メスの囲い込み行動をするときに発せられる声(モアン)が確認され、繁殖頻度が高まっている地域が確認され始めており、ボイストラップ調査ではなく、次の段階の調査、そして管理のアクションに移行しなければならなくなっている。

・山形大学で受託している大型野生動物生息動向調査では、今年度から仕様が変わり、市町村単位ではなく、集落単位での回答が得られるようになっている。今までより詳細な情報を得られることで、サルの群れ数が劇的に減っていることが分かった。集落単位の全県的な調査を毎年やる必要はないが、定期的には実施する必要がある。予算の確保と、どこが実施主体となるかという課題もあるが、被害状況、対策状況、効果測定、分布状況をGIS化する重要な事業なので、現行の市町村担当者依存の情報でなく、将来的には集落からの情報収集をベースにした全県的な調査を検討してほしい。

#### 市街地出沒対応について

##### (鈴木正嗣委員)

・市街地出沒での麻醉銃の使用においては、麻醉銃の誤射という事案も発生しており、麻醉銃使用者が麻醉の投与のみに集中できる体制の整備が必要である。また、市街地出沒の対応は出沒してから考えたのでは遅いので、事前に警察を交えた訓練が重要である。

##### (江成委員)

・麻醉銃の担い手を各地域に1人ずつ配置するという話だったが、その予算はどのようになっているのか。

##### (事務局)

・来年度、麻醉銃の購入費補助を計上している。また、放獣を委託している事業の中に麻醉銃の訓練を盛り込んでいる。

##### (江成委員)

・市街地出沒に関する市民向けの普及事業はないのか。

##### (事務局)

・総合クマ対策推進チームにおいて、毎年検討し、広報を行っている。また、一般の方も参加可能な野生動物研修会で取り上げたりしている。

##### (江成委員)

・説明資料について、単なる列記だと、課題の重要性と予算のバランスが見えてこないなので、課題別に予算を示していただいたほうがよい。

##### (鈴木正嗣委員)

・資料の見せ方を検討のうえ、取捨選択を含めた効率的な運用をお願いします。